



活動を特別視せず参加を

高知県立大学1年

石川 紗羅さん(19)

小学校の修学旅行で阪神大震災の被災地を訪ねて、町並みが一瞬で変わる地震の怖さに衝撃を受けた。対策をしないと地震が起きたときに後悔すると感じ、大学では福祉を学び、防災サークルにも所属している。

聴覚障害者の避難に役立つ手話動画を配信したり、ボランティアセンターの運営訓練などに参加したり。学生が活

動に携わると「すごい」「えらい」と言われるが、防災を特別視するのではなくて、誰もが参加できるようハードルを下げる取り組みがしたい。

むすび塾では、「避難訓練は健常者向けになっている」という話が印象的だった。今後は要支援者が参加できる訓練などを企画し、一人でも悲しむ人を減らしたい。

(高知新聞)